

学校・家庭・地域で育む “かみのかわの子ども”

令和6年11月 上三川町教育委員会

このリーフレットは、令和6年4月に行われた全国学力・学習状況調査及びとちぎっ子学習状況調査の結果を分析し、本町の児童・生徒のよさや課題をまとめたものです。



(1) 各教科の平均正答率と県平均との比較

	小学校第4学年 とちぎっ子調査	小学校第5学年 とちぎっ子調査	小学校第6学年 全国調査	中学校第2学年 とちぎっ子調査	中学校第3学年 全国調査
国語	66.0	64.0	70.0	60.5	61.0
	0	+0.6	+2.0	+0.9	+2.0
算数・数学	48.5	52.2	64.0	51.1	56.0
	-1.7	-0.7	+2.0	+0.6	+3.0
理科	71.1	57.3		56.1	
	-1.8	-2.5		+0.5	
社会				44.8	
				-1.0	
英語				45.8	
				+0.3	

注)上段・・・町平均正答率 下段・・・県平均との差 +・-の数値は、県平均との差です。

2ポイント以上高い場合は 、低い場合は で示しています。

(2) 「質問調査」より

【小学校】

◎生活面に関する質問に対する肯定的な回答が県平均を上回っており、基本的な生活習慣が身に付いていることが分かりました。

◎家庭での学習習慣が身に付いている児童が多いことが分かりました。

▲自分の考えやその理由が分かるように文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多いことが分かりました。

【中学校】

◎友達同士で話し合う活動に意欲的に取り組んでいる生徒が多いことが分かりました。

◎国語の学習が将来大切だと感じている生徒が多いことが分かりました。

▲「授業で分からないことについて、先生に聞くことができる」という質問に対して、肯定的な回答が県平均を下回っており、今後の課題であると考えます。

(3) 各調査結果から明らかになったこと

◎上三川町の児童・生徒のよさ ▲上三川町の児童・生徒の課題

国語

【小学校】

◎「書くこと」の内容では正答率が県平均を上回っています。

▲文の中での語句の係り方についての理解や、叙述を基に文章の内容を捉えることに課題があります。

【中学校】

◎「書くこと」の内容では正答率が県平均を上回っています。

▲話題や展開を捉えながら話し合い、互いの考えを結び付けて考えをまとめること（中2）や、文の構成について理解すること（中3）に課題があります。

算数・数学

【小学校】

◎四則計算の技能については、どの学年もおおむね身に付いています。

▲分数、小数のしくみや表し方の理解に課題があります。

【中学校】

◎どの領域の内容においても、正答率が県平均と同程度または上回っています。

▲説明を記述する問題について、正答率は県平均を上回っているものの、依然として苦手としている生徒が多く見られます。

理科

【小学校】

◎植物の体のつくりや育ちについての正答率が県平均と同程度になっています。

▲事象や結果、生活経験などをもとに関連付けたり推測したりして考えることに課題があります。

【中学校】

◎どの領域の内容においても、正答率が県平均と同程度になっています。

▲気体の発生や物質の特定など領域「粒子」の問題について課題があります。

社会

【中学校】

◎示された資料を読み取り、考察する問題の正答率が県平均を上回っています。

▲主として知識・技能に関する問題に課題があります。

英語

【中学校】

◎情報を正確に聞き取る問題において、正答率が県平均を上回っています。

▲一般動詞の三人称単数現在形や過去形を書く問題に課題があります。

本年度の結果から

- 小学校第4学年から中学校第3学年までの教科に関する調査結果を見ると、どの教科も県平均と比較して±3ポイント以内にあり、大きな差異は見られませんでした。学力向上に向けた学校の取組や、各家庭の協力等が結果に結び付いています。上三川町では、今後も家庭との連携を図りながら、授業改善を進めていきます。
- 全国学力・学習状況調査及びとちぎっ子学習状況調査の結果から、個人の得意不得意が明らかになっています。得意なことは自信を持ってますます頑張れるように、不得意な部分は補うことで自信になるように、日々の学習活動の改善・充実を図っていきましょう。